

## 令和4年度第2回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和4年12月8日（木）10時00分～12時00分

会 場：鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-5～6-8

出席者：【鳥取市政懇話会委員（11名）】

会長 児嶋祥悟委員、副会長 西垣豪委員

小川原秀哉委員、景下明美委員、武田恭明委員、谷口真澄委員、綱本信治委員、  
西山信一委員、野村康典委員、眞木真理委員、吉澤美月委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、尾室教育長、乾総務部長、  
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、国森環境局長、有本中心市街地整備課長  
戸田企画推進部次長兼政策企画課長、平田政策企画課長補佐

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

本日は年末の大変お忙しい中、第2回市政懇話会にご出席いただき、感謝申し上げます。また、委員の皆様方には、日頃より市政の推進に格別なるご理解・ご支援を賜っており、改めて感謝申し上げます。

本日は、前回に引き続き「政策公約」について、その中から特に「環境」・「まちづくり」について、ご意見を賜りたいと考えている。新型コロナウイルス感染症が相変わらず猛威を振るっており、昨日は8月から3か月半ぶりに鳥取県全県で1,000件を超える、1,010件の陽性者が発生した。この鳥取市保健所管内でも364件ということで、1週間ぶりに300件を超えた。少しずつ変異株に置き換わって、感染力が強い状況になっており、これから年末年始にかけて陽性者が増えるのではないかと懸念しているが、そういった中で、このコロナ禍を何とか克服しながら明るい未来を拓いていく、そのようなことをこれからしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。

委員の皆様から忌憚のないご意見を賜り、これからの市政に限りなく反映させていきたいと考えている。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 会長あいさつ

○児嶋会長

この懇話会は、今年で2回目の開催となる。本日は「市長政策公約（3期目）の取組方針」、その中から「環境」と「まちづくり」の2つのテーマについて、色々な分野からお集まりの皆様からの活発なご意見をお願いしたい。

#### 4 議事

##### 市長政策公約（3期目）の取組方針について

（1）政策公約の概要について・・・資料1

（2）「環境」について・・・資料2

（説明）

（意見交換）

##### ○綱本委員

鳥取市の温室効果ガス排出量は、どのように算出しているか。

##### ■国森環境局長

国が示しているマニュアルに基づいて算出している。例えば、人口や電力使用量、自動車の保有台数など、様々な指標を基にしている。

##### ○小川原委員

ロードマップについては、今、日本全国の自治体で取り組んでおり、それぞれの地域特性や課題に照らし合わせ、どうしていくかというところが肝要かと思う。マクロでは今の状況が分かるが、企業であれば、企業のCO<sub>2</sub>や電力消費状況を分野別に見える化しないと、具体的に、その企業として何をどう変えればCO<sub>2</sub>を削減できるかというところが分からず、手が出ないと思う。具体的に進めるためのツール、まずは見える化だと思うが、そういったものをしっかり支援していくような施策が必要ではないか。また、手順としては、やはり取引先、サプライチェーンであるが、大手企業の取引の中の基準に、そういった取り組みをしているところを入れないと取引ができないというようなことを行うとすれば、それは乱暴なやり方のようにも思う。それを示すだけでなく、どういう風にしたらそういう取り組みができるのかというところを支援する施策というのがベースではないかと思う。また、資料11ページの部門別のCO<sub>2</sub>排出量が多いところの課題として、運輸部門・家庭部門がポイントだと思う。これは、鳥取市における別の課題でもあるが、移動手段はやはり自動車であるというところに、政策としてどう取り組むか。具体的に言うと、自動車を持たずに移動ができるような、スマートシティみたいな話になってくるが、そのロードマップへの反映である。公共交通機関をEV化する等、そういったものを活用したいところに持っていけるようなシナリオや整理、そこを具体的に進める何か大きな幹があると、CO<sub>2</sub>排出量の大きな比率を占める家庭部門・運輸部門の対策として有効ではないかと思う。簡単な話ではないが、そこに対する取り組みについて、行政主導で何か方針が見えると、動きが始まるのではないかと感じている。

##### ■国森環境局長

部門ごとに、関係課での意見交換を行っている。また、そういう課題に対して対策をどうするかということについては、国が示す方針や本市の第3期計画で目指しているものもある。

先程、運輸部門・家庭部門についての話をいただいたが、公共交通やスマートシティの関係、物流についてもご意見をいただいている。そういったところの情報交換を図りながら、効果的な事業を示したい。

#### ○小川原委員

脱炭素を進めていこうと思うと、高齢化問題にも該当すると思うが、何歳まで自家用車での移動をしていくのかという話にも繋がってくると思う。総合的に、どういうまちづくり・市民の生活のあり方に持っていくのかというところとセットで取り組んでいかないと、なかなか「脱炭素」という一つのテーマだけで解決できる話ではなく、難しいのではないかと認識している。それぞれの分野で、目標を定めてCO<sub>2</sub>排出量を落とすロードマップは組めるが、具体的にどうするかという話になった時に、運輸と各家庭のEV購入支援みたいところがばらばらに動いても良くないと思う。移動手段をどういう風にしていくかというような、分野を横断した検討が必要になってくると思う。

#### ○西山委員

先程のご意見にもあったが、分かりにくいということが今大きな課題かと思う。これは1つの市のレベルということではなく、政府のレベルでも非常に説明が上手く出来ていないのではないかと思う。現在どんな状況に置かれているのかを正しく知る機会がなかなか無いという印象がある。事業者の立場・個人のレベルでどういうことができるかということが落とし込まれていないと行動に繋がりにくい。例えば、個人でできる行動については、国連の広報センターが「個人でできる10の行動」というパンフレットを出しているが、それぐらいしかない。環境省も分かりやすいものを出していない感じである。こういうことを地域のレベルで伝えていくということが、一つ、大切なタイミングではないかと感じたところである。また、事業者の方は、色々なガイドブック・ガイドラインが出ており、それはかなり参考になった。大学の方でもキャンパスの脱炭素化を検討しているが、そういう面でも資料13ページにあったようなものをそれぞれの企業体で考えてみるというのは、非常に良いきっかけになるのではないかと思う。例えば、大学のキャンパスでも、ゼロに近づけていく取り組みは検討しているが、最終的には、再生可能エネルギーが調達できなければ進まない。また、今後広がっていく炭素の取引の仕組みが上手く出来上がっていかないとゼロにはならない。そのような中で進めることになるので難しいが、資料13ページのようなことを各企業体の方でも検討されるということが大事ではないかと考える。もう一つは、今、国の方で「脱炭素先行地域」という取り組みを進めている。鳥取市や環境大学もそれに応募するグループに入っているが、ぜひ採択に向けて頑張ってくださいと思う。こういう取り組みを地域の企業や大学等が協力して取り組んでいくことが、一つのモデルになっていくのではないかと考えている。

#### ■国森環境局長

今、環境教育に力を入れており、脱炭素に関係するような太陽光発電の見学やカーボンニュートラルに関するワークショップを行っている。また、今年は、鳥取市民電力にご協力いた

だき、「こども省エネチャレンジ」という事業をスタートした。これは、例えば、冷蔵庫を早く閉めたり電気を消したりするなど、日々の行動で省エネに繋がるような行動を 5 項目設定し、夏休みの期間中、子どもたちに取り組んでいただいた。79 名の方がチャレンジされた結果、77,498 グラムの二酸化炭素の削減に繋がった。グラム数で見ると分かりにくいですが、これをペットボトルに換算すると 78,000 本の削減に繋がっており、子どもたちに分かりやすくお知らせした。先程、分かりにくいという話があったが、二酸化炭素の量を何かに換算して分かりやすくお示したり、見える化したりすることが大切だと思っている。

#### ○谷口委員

資料 13 ページの「脱炭素シナリオの考え方」について、2050 年時点で「電力消費量＝再エネ導入量」が一つの数値目標となり、この数値目標に向けて、どういう形で実現させていくかというロードマップを作ると理解していいか。

#### ■国森環境局長

お見込みのとおりである。ロードマップは、2050 年の CO<sub>2</sub> 排出量ゼロを目指す目標だが、CO<sub>2</sub> 排出量をゼロにすることは難しいため、ゼロにしきれない部分を再生可能エネルギーや森林の関係で補填していくような取り組みも行い、2050 年に向けて進めていく工程表となる。

#### ○谷口委員

再生可能エネルギーにも色々な種類がある。例えば太陽光発電について、どういう形で施策に盛り込み、2050 年の目標を達成していくかという話になると思うが、ロードマップの中でどれぐらい具体化しているのか。太陽光発電を学校に何台設置するなど、具体性は出てくるのか。東京都の場合は、新築住宅に太陽光発電の設置を義務づけるような施策を行っているが、鳥取市としても、将来県と市が一体となって、そういうような取り組みを行うことは考えられるか。

#### ■国森環境局長

住宅に関しては、国の方でも新築住宅に対しての施策があり、リフォーム等で断熱化を推進するような施策もある。また、県の方でも「NE-ST」という高断熱・高气密な住宅を推進する事業が行われている。エネルギーの削減という点では、断熱効果の高い住宅を推進する施策も一つの考えと認識しているため、そういった事業も取り組みを進めていきたいと考えている。

#### ○谷口委員

息子が新築住宅を建てる時に、太陽光発電の設置に関する国や県の補助金がないか探したが、特になかった。これから太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーを活用していくことになれば、行政として、県や市がどういう形で取り組みを行っていくのか。何らかの行政のサポートがないと現行では決して普及しない。

#### ■深澤市長

太陽光については、以前、鳥取市にも補助制度があった。これは、脱炭素に向けてというこ

ともあるが、省エネについての普及・啓発というような意味合いもあった。これからゼロカーボンになるロードマップに沿って、行政だけではなく、事業者の皆さん、市民の皆さん、また、国を挙げて取り組みを行っていくこととなるが、再生可能エネルギーをいかに導入していくかという中で、政策的に判断していくべきものであると考えている。先程の話にもあったが、鳥取県では断熱に関する補助制度等もあり、これによって省エネが図られる。そういうことも踏まえて、全体の中で考えていくべきことではないかと思っている。太陽光発電の普及については、現段階では以上のようなところだが、これからのこの取り組みというのは、決して市町村だけで出来ることではないため、県ともより一層の連携を図りながら、具体的に進めていきたい。特に県では、非常に高い2030年度の目標値を掲げておられ、それは県下の市町村との整合が図られた数値であるべきだと思うため、連携が必要だと認識している。

#### ○児嶋会長

鳥取県等に聞いて、またその辺の報告をフィードバックしたいと思う。

#### ○小川原委員

今のお話も非常に重要だと思う。例えば、若い世代の方が鳥取に移住すれば、住みやすい家が建てられる支援があるというのは、脱炭素だけでなく人口問題にも効いてくる政策になると思う。国が定めたロードマップに従って、各自治体が一斉に取り組みを進めているが、他自治体とどう差別化していくかというところがポイントだと思う。鳥取に移住したら車がないとなかなか生活が難しいと思うが、車を持たなくても生活ができる環境・仕組みを作ると、移住定住というところにも効いてくる。総合的にどう持っていくかというところが大きなポイントではないかと考える。

#### ○綱本委員

家庭による温室効果ガス排出量は、全体の5分の1を占めている。今はスプレー缶がよく使われているが、スプレー缶は可燃ガスを空中に放出する。鳥取市でのスプレー缶による可燃ガスの放出量はどれくらいか。

#### ■国森環境局長

資料等を持ち合わせていないため、お答えできない。

#### ○綱本委員

殺虫剤は、今はスプレー缶があるが、昔は手作業で行っていた。なるべくスプレー缶を廃止するようにすれば、可燃ガスの放出も少なく済むと思う。こういうことを目指したらどうか。また、今原発が見直されているが、鳥取市は原発問題に対しどのような思いを持っているか。

#### ○児嶋会長

難しい問題である。事務局では答えにくいかもしれない。

#### ○眞木委員

家庭部門において、自動車を利用される方が多い理由としては、もちろん通勤もあると思うが、一番の懸念点として買い物があると思う。例えば、主婦やお子さんがいるお母さん方が

重い荷物を持って帰ろうとする時に、自動車以外で、どのような方法でその重い荷物を持ち帰るのか。そういった生活環境も考えた上で提示していかないと、実際の利用者はやはり利便性を優先してしまうと思う。そういった点も考慮して、政策として取り入れられた方が良いのではないかと。また、先程の新築住宅の太陽光発電に関する話について、人口増に繋げるというのはすごく素晴らしいと思うが、一方で、全国各地に色々な都道府県がある中で、地球環境に優しいからその地域に行こうと思う若者や移住者がどれだけいるかというところに少し着目していただきたい。自分がその土地に移住するかどうかを考える時に、地球環境に優しいとか、新築住宅への太陽光発電の設置補助があるからという点が決め手になるかと言えば、難しいところもあると思う。基準の一つにはなると思うが、少し切り離れた上で考えた方が良いのではないかと思った。東京都の新築住宅への太陽光発電の設置補助というのは、やはり元々人口が多い地域だから掲げられることでもあると思う。鳥取市は、以前ランキングで1位を獲り、これからもどんどん移住される方がおられ、これからもっと未来があると思っているが、一方で、新築住宅だけで良いのかということ懸念している。太陽光発電に関して、既存の建物や学校などの公共施設においても、太陽光発電を進めるようなことももう少し考えられた方がより良いのではないかと思った。

#### ■国森環境局長

近年、「PPAモデル」という初期投資ゼロで太陽光発電システムを導入できる仕組みがある。使用者は、電力事業者と契約を結び、サービス料を支払うような制度である。そういった新しい動きもあるため、そういったものとも連動して、広がっていくような形を考えていきたい。

#### ○小川原委員

太陽光発電で家庭の電気代を賄えれば電気代が下がるが、それを導入するためのイニシャルコストがハードルになっている。要は、イニシャルコストをかけずに電気代が安くなるのが住民側のメリットになると思う。鳥取に行けば、高機能な住宅が安く手に入り、安い電気代で生活できるというPRが必要なのではないかと思う。おっしゃるとおり、地球環境に優しいだけの触れ込みではなかなか厳しいと思う。具体的なメリットを提示しなければいけない。

#### ○武田委員

ソーラーに関する話が出ていたが、例えば、遷喬小学校には大きな体育館もある。その上にソーラーを設置すれば、非常時の時に大変便利な施設になると思う。市が管理しているような公共の場所には、早めにソーラーを設置していただきたい。災害の時でも、いわゆる蓄電池等を用意していただければ、電源が落ちた時でも、そこで生活できることが考えられるため、よろしく願いしたい。また、鳥取市には「わがまち防災支援補助金」という制度があり、小学校単位の地区に補助金を出している。例えば、遷喬小学校は55万円の補助金をいただき、倉庫とカセットボンベで動く発電機を2台購入した。この補助金をどのように使うかは地区によって異なるが、こういう制度を活用して、各小学校に防災資材を備蓄できると

ということで、非常にありがたいと思っている。また、防災に関して、主に健常者が対象となっているが、もう少し障がい者の方に向けた施策を考えていかなければいけないと思っている。何か災害が起きたときに、誰も取り残されないよう考えてほしいと思う。

#### ○野村委員

エコキュートを設置する場合、鳥取市には補助金制度がないが、全国的に見れば、そういった補助金制度を設けているようだ。鳥取市として、県とも含めて、こういった補助金制度を設けるような考えがあれば教えてほしい。

#### ■国森環境局長

エネルギー消費量を削減する手段は色々あると思う。省エネ家電等もそういった制度があり、エコキュートもその中の一つである。ご意見として伺い、持ち帰らせていただきたい。

### (3)「まちづくりについて」・・・資料3

(説明)

(意見交換)

#### ○武田委員

旧本庁舎・第2庁舎跡地に関する説明があったが、基本的には建物を建てずに、広場として残すということか。

#### ■高橋企画推進部長

基本的には、大きな建物は建てず、あくまでオープンスペースとして活用するが、例えば災害避難所となった場合にトイレ等は必要となるため、トイレや簡易的な飲食を提供できる場所を作れないかということは検討の俎上に上がっている。少し規模が大きい建物を建てようと思うと埋蔵文化財の調査が必要となり、市民の方に利用していただくのがかなり遅れてくるため、検討の段階では、あくまでもオープンスペースとして色々な方に利用していただけるのが良いのではないかというところになっている。

#### ○児嶋会長

ホール等文化施設のあり方検討委員会に関する説明があったが、これはどちらかと言うと、建物を建てる方向の話か。

#### ■高橋企画推進部長

これは場所を限定しての話ではなく、旧本庁舎等跡地に文化施設を統合・複合化して建てるというような形での議論ではない。今後、どこにそういった施設を考えていくのかというのは、次の段階の話になるかと思う。

#### ○武田委員

確かに、旧本庁舎の方は掘れば何が出てくるか分からないが、第2庁舎の方はそのようなこ

とはないのではないか。例えば、そこに防災施設や美術館を作ることは可能か。

#### ■高橋企画推進部長

第2庁舎の方については、埋蔵文化財包蔵地から外れているため、それは可能だと思うが、美術館としては少し狭いのではないかと思う。

#### ○武田委員

美術館がないのは鳥取市だけである。過去に美術館を建てる計画があったが、その計画は無くなってしまった。鳥取市民にしてみれば50年の計を考えてない。例えば、今の文化センターを土地が安い等の理由でそこに持っていったとしても、そんなに集客力はないと思う。バードスタジアムについても、例えば布勢運動公園の近くにあれば集客できたと思う。考える人が10年先20年先を考えていない。

#### ○景下委員

Wi-Fiのフリースポットが拡充されていることについて感謝している。今、ほとんどの児童がタブレットを持っており、Wi-Fiスポットがあれば、行く先々で、調べたい時に調べることができる。市立中央図書館には、まだWi-Fi設備がないため、もしそこに整備されれば、本を読みながらタブレットで調べることができるようになるのではないかと思う。また、鉄道公園でのイベントについて、大変わくわくするような会場だったが、日曜日は駐車場サービスを受けることができなかった。今後、鉄道公園でイベントがある場合は、さざんか会館や市立中央図書館の駐車場を利用したらいいか。

#### ■高橋企画推進部長

市立中央図書館のWi-Fiについては、早速検討させていただきたい。状況について少し調べさせていただきたいと思う。また、先程少しご説明したが、中心市街地のところでまだWi-Fiが設置されていないということがある、出来るだけ設置の方向で考えていきたいと思っている。実現がいつ頃になるかは未定だが、Wi-Fiの需要が多いということで、非常に重視しているところである。公民館の中でもWi-Fiが使える場所・使えない場所があり、そちらについての要望も出ているため、まだ繋がらないということがあれば、個々に対応していきたいと考えている。

#### ■有本中心市街地整備課長

今回の鉄道公園での実証事業は、決してイベントではなく、あくまでも日常をどう変えるかというコンセプトで行ったものであり、例えば1,000~2,000人の集客を目指して行ったものではない。そのあたりをなかなか市民の皆さんに浸透できなかったことは少し反省点であるが、何も無いところに行ってみたいと思う場所を出現させるという取り組みであるため、ここに来街者用の駐車場を確保するという考え方はなかった。この度の第4期中心市街地活性化基本計画検討委員会でも、数多く駐車場整備に関するご意見をいただいたところであるが、実は駅周辺にはかなり多くの時間貸し駐車場が整備されている。こちらの思いとすれば、既存の駐車場に車を停めていただき、そこから歩いて鉄道公園に来て、ゆっくりと散策をしていただきたい。そういった気持ちでこの辺りを整備していこうという考え方で

あるため、駐車場は、イベントをする時にはもちろんイベント主催者がそれなりに確保しなければいけないと思うが、このために整備するという考えは現在ない。

#### ○綱本委員

歩いて回れるまちということだが、バードハットは、例えば日中だけでも車をシャットアウトすることはできないのか。そういう風にすれば、車の危険もなく、子どもでも歩いてもらえるのではないか。

#### ■有本中心市街地整備課長

バードハットについては、設置時に色々と協議を行い、イベント時に限って交通規制をかけられることになっている。こういったまちづくりを進めていく中で、近い将来、交通量が減り、車の台数も減ってきた時に、そこを広場にすべきでないかという議論がもう1回起こってくるのではないかと予想している。その時期を待ちたいと思っている。

#### ○西山委員

環境大学に、緑地計画やグリーン化を専門にしている加藤先生、また、都市計画や生活交流空間を専門にしている張先生がいらっしゃる。加藤先生にこの話をしたら、学生とゼミ等で取り上げてみたいとおっしゃっていただいた。やはり、若い人のセンスで、専門家と一緒にアイデアを考えてもらう。使えるものになるかどうか分からないが、そういう取り組みを大学の方としても応援したいと思う。加藤先生には、本日の資料もお渡ししている。特にこの駅南の取り組みと旧本庁舎の緑地化のあたりについて、資料等、ご説明いただければ取り組んでいただけるのではないかと思うので、よろしくお願ひしたい。

#### ○吉澤委員

Wi-Fi整備・イベント等が行われていることについて、学生にとってもありがたいと感じるが、若者の中でその情報が認知されているかということ、まだまだ浅いかと思う。そのあたりの情報発信力を高めなければいけないのではないかと感じる。また、イベントを行う中で、学生との交流も重視してほしいというのが若者の1人としての意見である。学生の中には、まちで活躍したいという方も多く、色んなサークル・個人で活動している方もいる。もう少し若者を巻き込んでの活動ができれば、より一層、鳥取のにぎわい創出や魅力発信に繋がるのではないかと考える。その学生に対しても魅力発信ができれば、進学や就職等にも関係し、鳥取の移住定住にも影響を与えると思う。また、鉄道公園でアンケートを実施されたとのことだったが、大学生等の学生にも意識調査という意味で、鳥取に対する考え等に関するアンケートを実施し、それを反映できれば、より一層まちなかが盛り上がるのではないかと思う。

#### ○谷口委員

先程、駅南の駐車場の話があったが、ただイベントだけで集客するのではなく、常時、ここに人が散策など色んな形で集まってきて、この空間を楽しむということは、おそらく長時間ではなく1時間ぐらいになるかと思うが、やはり有料駐車場というのは、わざわざ散策のために使用したくない。今、さざんか会館等の駐車場は結構満車の状態である。1時間でも置

けるような駐車場が必要ではないかと思う。

#### ■有本中心市街地整備課長

今回、第4期中心市街地活性化基本計画を作るにあたって、市民アンケートを行ったところ、やはり駐車場への声が非常に多かった。おそらく今のご意見のとおり、無料で置ける駐車場は欲しいというご意見だと認識している。郊外型の店舗が、まさにそういう駐車場を整備しており、その結果、中心市街地が空洞化していると考えているが、そういう意味では、都会に行くと、逆に、どこに無料の駐車場があるのだろうといつも考える。おそらく都会には、駐車場代を払ってでも、わざわざ行きたい場所があるのだと思う。鳥取もそろそろ無料という概念を捨て、お金を払ってでも行きたいまちにすべきだと考えている。これは、かなり中長期的な話にはなるが、魅力のある空間を作り、行ってみたい場所をたくさん作っていくことこそが、中心市街地の活性化に繋がると考えている。

#### ○谷口委員

都会とローカルを比較してはいけない。そんな魅力づけが可能か。何をもちて魅力づけをしようと考えているのか。

#### ■有本中心市街地整備課長

中心市街地の魅力づけというのは、かなり長い時間をかけて取り組んできており、おっしゃる通り、難しい課題だと認識している。その中で、毎年、商店街の方々やまちなかでイベントをしていただく方々と連携して、何とか人に来ていただくようなことをずっと仕掛けている。今回の鉄道公園についても、なかなか行きづらいという声があり、どうしたら気軽に来られる場所にできるかということで、色々知恵を絞り、今回このような取り組みを行った。実証事業のアンケートの結果、近隣住民の皆様から「ここに来やすくなった」「雰囲気明るくなった」というような声をいただいた。やはり、こういったスポットをまちの中に複数作っていくことによって、まずは行ってみたい空間を作り、それによって、まちの中で商売をしていらっしゃる方が、例えば違った物も売ってみよう・こういう商売をしてみようとなり、そういうことが相乗効果となって、まちというものは作られていくのだろうと思う。そういうことを継続してやるのが大事だと考えている。

#### ○谷口委員

人を惹きつけるためには、例えば、境港市の鬼太郎ロードのような魅力ある店舗の町並みをつくるようなことをしないと集客力はない。ソフト面・環境面だけをやるのでは、到底、魅力にはならない。やはり、そういうような魅力づけを、何かのポイントとして考えられて、そこに人を集める。そうすると、最後にやはり駐車場が欲しいとなる。有料駐車場でも来ていただけるような魅力づけがあれば利用していただいても良いと思うが、難しい。都会と比較されたが、鳥取でそういうようなものになるとは思えない。もう1点、「ホール等文化施設のあり方に関する検討委員会について、資料25ページのステップ3のところ、『文化施設のあるべき姿を提案する』と記載があるが、提案されて、次はどうされるのか。委員会で、施設を残す・耐震でやっていく・建て替える等、継続施設を含め、そういう話が出てくると

思うが、例えば、議会の議決を経て決定するのか。そのあたりはどういう流れになるか。

#### ■高橋企画推進部長

検討スケジュール表の中の「提案」とは、委員会としての考え方を提案するということである。ご提案をいただいた後、鳥取市の方で、それに対してどう対応するかということを考え、計画・案等を作る。おっしゃられたように、それを実行しようとする当然、議決・予算が必要となるため、議会の方に諮ることになる。ただ、その前には、やはり市民の皆さんにご意見を伺う場面も必要だろうと考えている。

#### ○谷口委員

例えば、こういう形で計画を進めているが意見はどうかと、途中の段階でもパブリックコメントや市民に対して意見を伺う機会はあるか。

#### ■高橋企画推進部長

この委員会で協議をするのは、あくまでも方向性である。その方向性の中で、鳥取市の方で、この施設はこんな風にしようと言を進め、その段階で、市民の方にご意見を伺うことになると思う。そうした上で、最終的な施設の整備方針になっていく。

#### ○谷口委員

資料 25 ページに、市民会館・文化センター・福祉文化会館が老朽化していると記載がある。私は、福祉文化会館には時々行くが、他の施設の利用頻度はどれぐらいか。例えば、市民会館にしても、同じような施設が近くにある。同じようなものをまた作るのか、耐震を加えて維持するのか。私はもう施設はあまり作らないほうが良いと思う。施設は、維持にもものすごくお金がかかるため、できればなるべく集約してほしい。開館から 50 年余りも経過しているため、役目を終えたような形でやってもらえたらいいなと思う。

#### ○眞木委員

実証事業について、300 人にアンケートをとられたとのことだったが、実証事業の期間が 2 週間と短いのが気になる。イベントの時の人数ではなく、日常的に通っていただける人数を想定しているという説明があったが、そういった意味で、2 週間というのは余りにも短いのではないかというのが個人的な感想である。また、16 ページ目のまち歩き推進ゾーンについて、先ほど学生とのコラボという話もあって素晴らしいと思ったが、もし学生と進めていくのであれば、商店街の活性化というところで仕掛けをつくるにあたって、実際に商店街のお店の中に人に入っていただくところまで進めようと考えたと、例えば、謎解きでお店の中に入らないとヒントが分からない等、まち全体を一つのスポットとする遊びのような仕掛けを学生とコラボして考えられてみたら面白いと思う。また、まち歩き推進ゾーンで、レンタサイクルなどの自転車の貸し出しを行っていないことが気になっている。実際に、この距離を歩くと直線でも 30 分以上かかる。もちろん、時間のある方は楽しめる距離だと思うが、例えば、観光促進も考えている施策であれば、なおさら自転車等の貸し出しも検討した方が良いと思う。また、このゾーン全体が鳥の形に似ていると思った。このゾーン全体を市民の皆さんに愛着を持ってもらえるように、ネーミング募集をされるなどすれば、広報の戦略に

もなるのではないかと思う。鳥取市の鳥はオオルリと聞いたが、鳥取ならではのそういう愛着のあるネーミングを市民の皆さんから募集し、こういうゾーンができたというPRをされても良いのではないかと思う。あと、資料17ページについて、騒音規制のところが気になった。日本赤十字病院の隣にあるという点がすごく気になっており、患者の方にとって本当に騒音にならないのか。せっかく素敵なオープンスペースを作って憩いの場になった後に、病院の迷惑になってしまったらもったいないと思う。具体的に、どのような騒音の調査を終えて、実施できると判断されたのか。

#### ■有本中心市街地整備課長

まず、実証事業の期間が2週間で短すぎるというご意見について、今回は、何もない場所に出店者をお願いをして出店していただいたが、2週間は長すぎるというご意見をいただいた。野外で2週間やり切るとするのは、相当大変なことだと思っており、そこはご意見としてお伺いしたいと思う。ただ単にテーブルと椅子を置くだけであれば、1~2ヶ月でも実施できたが、今回はずっと管理スタッフを置くということで、2週間が限界だったというのが率直な感想である。また、学生さんとのコラボについて、当初考えたが、結果的には駅南に出店していただいた団体の中に、環境大学の学生の方が2~3名含まれており、一生懸命接客をしていただいたというようなこともあった。今後も学生さんと連携する機会を広げさせていきたいと考えている。それから、まちを歩かせる仕掛けというのは、おっしゃられる通りである。このゾーニングは一過性のものではなく、基本的には、今後5年間はこのコンセプトに基づいてまちをつくっていかうと思っている。色々な歩ける仕掛けというのは当然必要なことだろうと思うため、しっかりご意見を伺いながら考えていきたい。最後に、レンタサイクルの件は、PRがなかなか足りていないのかもしれないが、実は鳥取駅の自転車置き場のところで貸し出しを行っている。また、市営片原駐車場でも貸し出しを行っている。それだけではなかなか足りないということもあると思うため、例えば、それに加えてシェアサイクルを導入できないかということは考えている。予算の関係やシェアサイクルに関して市民の皆さん・観光客の皆さんに使っていただけるのかどうかということがあるが、必要であれば設置する方向で考えていきたい。最後にネーミングについて、私も気がつかなかった。鳥の形をしているというお話だったが、5年に1度見直しがあり、この形が若干変化する可能性もある。なかなか断定的なことはできないが、いわゆるキャッチーで若者に響くようなやり方で、取り組みを進めることも重要な視点だと思うため、検討してみたい。

#### ■高橋企画推進部長

資料17ページの庁舎跡地の騒音規制に関するご質問があった。例えば、大規模なイベントステージのようなものは作れないと思っているため、常時大きな音が出るようなイベントを開催することはあまり想定していないが、検討の中で、やはり隣接する病院に入院されている患者の方の話もあった。このあたりも、やはりある程度の基準が設けてあり、昼間は65デシベル以下、夜は60デシベル以下でないといけない。ただ、現状は工事の音等があるため、測定をしているということではないが、工事の音量がどれぐらいか常に表示されるよう

になっている。ただ、そこは道路の横であるため、工事の音か車の音か判別しにくいこともあるため、その辺のことも含めて分析しないといけないが、いずれにしても、大きな音声でイベントをやることについては、十分な配慮を行わないといけないということで、庁内での意見は出ている。

#### ○小川原委員

私はフリーWi-Fiのところをお手伝いしているが、想定以上に評価いただいていると思った。逆にキャリアの立場からすると、これだけスマホが広がり、スマホの料金を固定化している中で、フリーWi-Fiを繋ぐという環境だけの使命は大体終わったのではないかという認識を持っていたが、もう一つ、これからやっていかなければいけないと思ったのは、プロモーションである。フリーWi-Fiは、繋ぐその先にプッシュで情報配信するようなこともできる。そういったものをもっと活かすことによって、例えば、防災エリアであれば、避難場所に応じた情報発信もできるし、店舗に行った時に商品に繋がるような案内インフォメーションを配信するなど、行動に繋がるような情報発信もできると思う。また、実証事業の調査期間が短いのではないかという話もあったが、Wi-Fiをご利用いただくと人流調査みたいなものもネットワークを介して取ることができると思う。リアルとバーチャルを上手く組み合わせながら、環境整備及びプロモーションを進めていく上で、このフリーWi-Fiなどの環境はすごく使命が大きいと認識した。

#### ○児嶋会長

最後に、西垣副会長にまとめをお願いしたい。

#### ○西垣副会長

環境問題も、2050年という少し長い先ではあるが、今からできることも当然あると思う。本日色々言われたように、行動計画が分かれば、今日からできること・これから先やらないといけないことをしっかりと整理し、我々も意識していきたいと考えている。また、まちづくりに関しては、私は鳥取市観光コンベンション協会の会長をしており、レンタサイクルも運営しているが、PR不足であることを認識した。鳥取市が単独で苦勞するのではなく、やはり、私たちも私事としてしっかりと寄り添いながら取り組んでいきたいと思う。

#### ■深澤市長

非常に長時間にわたり、熱心にご議論いただいた。また、大変示唆に富むご意見・ご提案等をいただいたことについて、まずもって心より感謝を申し上げます。環境について、またまちづくり、これは文化施設のあり方等も含めてということになるが、いずれも非常に重要な課題事項であると考えており、本日、委員の皆様からいただいたご意見・ご提言等をしっかりと踏まえて、これからのまちづくりに反映させていきたいと考えている。環境問題についても、2050年にゼロカーボンになる道筋を具体的にしっかりとお示しをするということと併せ、鳥取市だけでなく、これは事業者の皆さん・市民の皆さんにしっかりと情報を共有しながら、また、向かうべき方向も共有をしていくことが必要ではないかと考えており、今、ロードマップを作っている。来年度から具体的にさらにこの第3期環境基本計画に基づいて、

様々な取り組みを展開していくことになるため、本日いただいたご意見を来年度等に活かしていきたいと考えている。まちづくりについても、来年度から第4期中心市街地活性化基本計画がスタートすることになる。鳥取市では、平成19年11月に第1期計画を作り、これから第4期ということで、引き続いての大きな課題であると考えている。また、施設のあり方についても、公共施設の更新問題は、鳥取市だけでなく全国自治体の大きな課題である。高度成長期につくられた、いわゆる箱物施設等が老朽化をしてきて、建て替えるのか廃止するのか、このような問題に直面しているが、鳥取市には道路等インフラを除いて1,001施設、90万平米以上の総延べ床面積があり、他市町村と比べて少し公共施設が多い。合併等もあり、そういう市である。これを効率的に進めていくということで、例えば、類似施設は統合化する、また、異なった機能を持っている施設複数は一つにして複合化する、このような手法を用いて計画的に進めていくことになる。文化施設のあり方についても、委員会の皆様の色んなご意見を踏まえながら、鳥取市としてどのように考えるかということをお示ししていく必要があると思うため、しっかりと取り組んでいきたいと思う。本日は、長時間にわたり、熱心にご議論いただいたことについて、重ねて感謝申し上げます。